

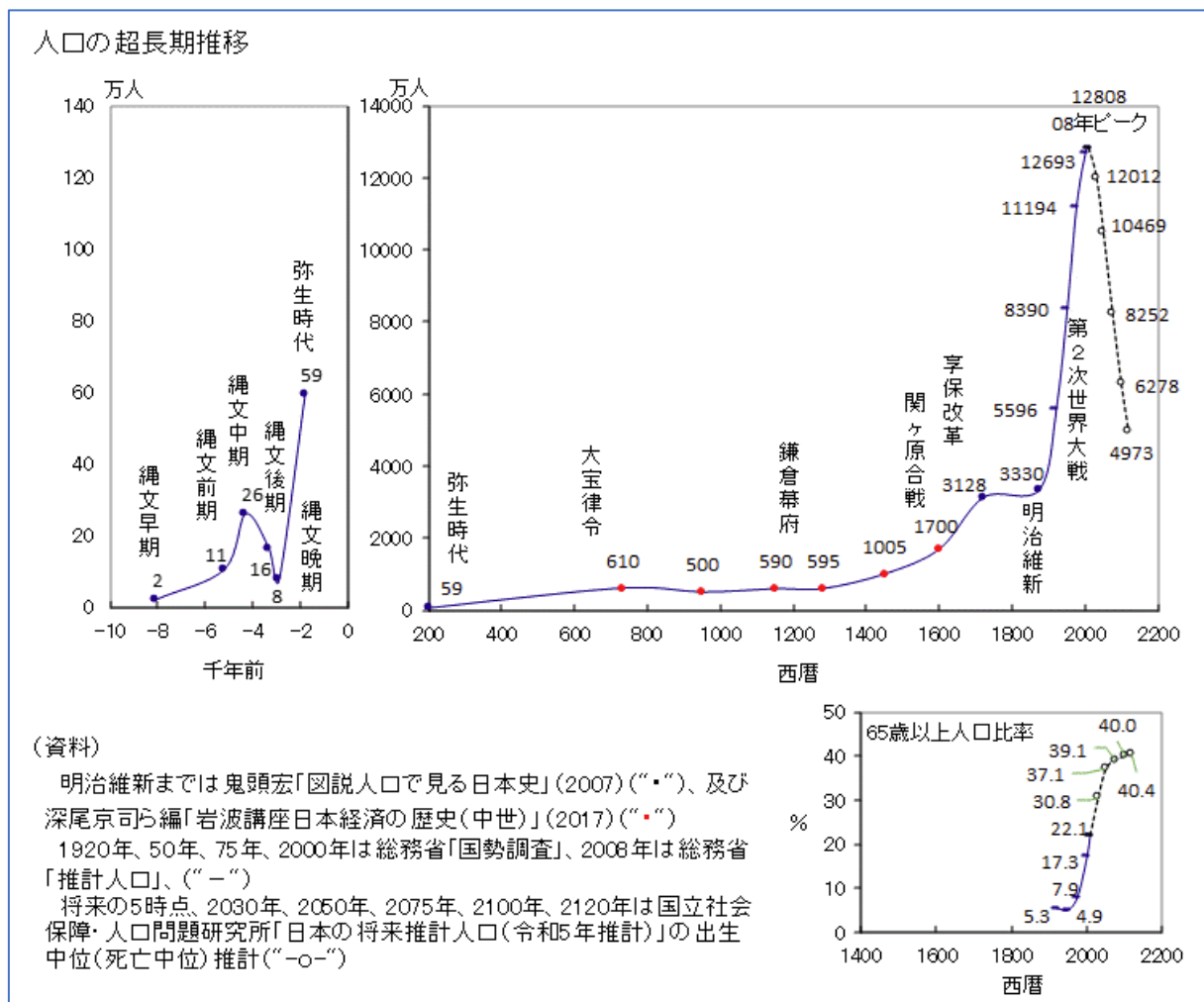
3. 解説：人口にみる日本の過去・現在・未来の姿

2025 年（戦後 80 年）という節目に当たり、現在の日本の実態と、確かな将来（50 年後）を示す「人口」について整理する。そこに見えてくるのは、50 年後には総人口が 7 割に減少し、その総人口の 1 割を外国人が占め、近親者が全くいない高齢単独世帯が急増するという日本の姿である。社会・経済の仕組み、国土・都市・まちづくりのあり方・担い手が根本的に変わらざるを得ない。

〔総人口〕 ※「総人口」には、国内滞在期間が 3 か月を超える「外国人」が含まれる

日本の総人口は、令和 2(2020)年国勢調査による 1 億 2,615 万人が 50 年後の 2070 年には 8,700 万人に減少する(2020 年時点の 69.0%)。総人口が 1 億人を下回る時期は 2056 年になり、人口減少の速度は従来推計よりもわずかに緩むが、これは国際人口移動の影響が大きい。2070 年の「日本人」人口は 7,761 万人で、50 年後、日本の総人口の約 1 割(940 万人)が外国人になる。

総人口に占める 65 歳以上人口の割合(高齢化率)は、2020 年 28.6%から 2070 年には 38.7%へと上昇する。65 歳以上人口(高齢者数)のピークは、2043 年の 3,953 万人。日本の 65 歳以上人口の割合は、世界で最高(200 の国・地域中)、65 歳以上の就業者数は、20 年連続で増加、914 万人と過去最多。就業者総数に占める 65 歳以上の就業者の割合は、13.5%。65 歳以上の年齢階級別就業率は、いずれも過去最高。日本の 65 歳以上の就業率は、主要国の中でも高い水準にある。



出典：日本の将来推計人口（令和 5 年推計） 令和 5(2023)年 4 月 26 日 国立社会保障・人口問題研究所
https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp_zenkoku2023.asp
 出典：統計トピックス No.142 統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－ 令和 6 年 9 月
 15 日 総務省 <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1420.htm>
 出典：社会実情データ図録 <https://honkawa2.sakura.ne.jp/1150.html>

【人口動態】 ※ 人口動態とは、一定期間における出生・死亡・結婚・離婚・移転等による変動
 令和 5 年（2023）の出生数は 72 万 7,288 人で、明治 32 年の人口動態調査開始以来最少となり、
 合計特殊出生率も 1.20 と過去最低となった。死亡数は 157 万 6,016 人で調査開始以来最多とな
 り、死亡率(人口千対)は 13.0 で前年の 12.9 より上昇している。要するに、出生人数の 2 倍の
 方が亡くなっているという、少子・多死構造が総人口減少の主要因で、それは急には変わらない。
 出典：令和 5 年（2023）人口動態統計（確定数）の概況 令和 6 年 9 月 17 日 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei23/index.html>

【世帯構造】

一般世帯総数は、「世帯の単独化」を背景に令和 2（2020）年の 5,570 万世帯から令和 12（2030）
 年まで増加を続け、5,773 万世帯でピークを迎える。その後は減少に転じ、令和 32（2050）年に
 5,261 万世帯と、令和 2（2020）年より 310 万世帯減少する。これは住宅需要の縮小を意味する。

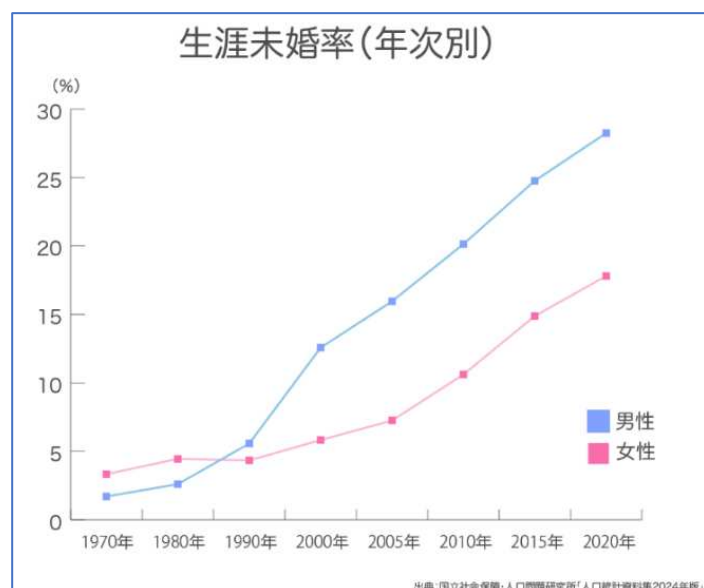
65 歳以上の高齢単独世帯に占める未婚の割合をみると、令和 2（2020）年時点では男性 33.7%、
 女性 11.9%であったが、過去の未婚率の上昇を反映して今後は男女ともに一貫して上昇を続け、
 令和 32（2050）年には男性 59.7%、女性 30.2%に達する。30 年後の高齢単独世帯は有配偶・死
 別・離別でも子どものいない割合が高まることに加え、本人の兄弟姉妹数も少なくなるため、近
 親者が全くいない高齢単独世帯が急増すると想定される。

出典：日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和 6（2024）年推計）－令和 2（2020）～32（2050）年－
 令和 6 年 11 月 11 日公表 国立社会保障・人口問題研究所
<https://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2024/t-page.asp>

【結婚構造】

婚姻件数は 47 万 4741 組で、婚姻率
 (人口千対)は 3.9 で前年の 4.1 より
 低下した。離婚件数は 18 万 3814 組
 で、離婚率(人口千対)は 1.52 で前年
 の 1.47 より上昇した。

出典：令和 5 年（2023）人口動態統計
 （確定数）の概況 令和 6 年 9 月 17 日
 厚生労働省
<https://tinyurl.com/26fbo569>



近年、結婚行動の変化においては、男女ともに晩婚化、非婚化（50 歳時未婚者割合の上昇）が同時に進行しており、将来の男女・年齢別配偶関係別人口における 15 歳以上全体の未婚者の割合（未婚率）をみると、令和 2（2020）年の男性 34.6%、女性 24.8%から、30 年後の令和 32（2050）年には男性 36.5%、女性 27.1%へと上昇する。

出典：日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和 6(2024)年推計）－令和 2(2020)～32(2050)年－ 令和 6 年 11 月 11 日 国立社会保障・人口問題研究所 <https://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2024/t-page.asp>

民間調査によると、結婚願望がある人は男女ともに「約 7 割」で、婚活をしている独身男女はともに「約 4 割」、そして独身男女に人気の婚活方法は「マッチングアプリ」が最多となっている。結婚をしたくない人の理由は「時間を自由に使いたいから」が最多で、独身男女の結婚できない原因は、以下の 3 つ。

- 男女ともに出会いの数が足りない
- 「女性の容姿」に厳しすぎる男性は結婚のハードルが高くなる
- 「男性の年収」に厳しすぎる女性は結婚のハードルが高くなる

出典：生涯未婚率は急増中！独身男女対象のアンケートから判明した結婚できない原因 2024/08/17 ハッピーメール[インバウンド] <https://happymail.co.jp/happylife/questionnaire/no-marriage-life/>

【インバウンド構造】

訪日外客数の 2024 年 11 月までの累計は過去最多の 33,379,900 人となり、12 月までの年間では 3,500 万人と見込まれる。

逆に、日本からの出国日本人数は 2024 年 11 月までの累計は 11,820,000 人、12 月までの年間推計 1,300 万人と見込まれ、訪日

外客数の 1/3 程度となっている。

訪日外国人（一般客）1 人当たり旅行支出は約 22 万円前後で推移しており、インバウンド消費額は年間 7.7 兆円（生産誘発効果 13.5 兆円）と見込まれる。今後の日本人の人口減少・購買力低下、外国人の日本文化の評価の高まりを考えると、こうした傾向の拡大が見通される。インバウンド消費（自動車に次ぐ輸出）が全国各地で発生することを考えると、インバウンド需要と越境 EC は今後の地方創生の経済的自立の重要な柱となる。

出典：訪日外客数（2024 年 11 月推計値） 2024 年 12 月 18 日 JNTO 日本政府観光局

https://www.jnto.go.jp/news/files/20241218_1615.pdf

【インバウンド消費動向調査】2024 年 7-9 月期の調査結果（1 次速報）の概要 2024 年 10 月 16 日 国土交通省観光庁 <https://www.mlit.go.jp/kankochu/content/001767309.pdf>

